

阿勒騰塔格山脈の高嶺には、斑文石多く、稀に花崗岩を露出する處あり。周邊には粘土砂石、石灰石等の類、極めて饒多なりと云ふ。

リヒトホーフエン氏或はロツチー氏等の踏査に依れば、崑崙山の本系は、地球の最下部を組織する、原始界の片麻岩竝に結晶片岩を以て大部を構成すとあり。

崑崙山脈の諸山は、只峨々たる禿山にして、一も樹林あること無し。谷地及狹谷には時に多少灌木雜草の生ずるを見るのみ。此の灌木雜草は、新疆印度貿易の爲め毎年同山中を往來する「キャラバン」即ち隊商の生命とも謂ふべき、貴重のものたり。何となれば、崑崙山脈の通過は、海拔一萬尺以上の處を、殆んど三十日間に亘りて旅行し、殊に内十五日間は、全く無人の境なるが故に、長途乗馱馬の秣と燃料とは、到底携帶するを許さず。是に於て彼の雜草は、乗馱馬の秣に、灌木は炊事用に、必要缺くべからざればなり。

連山亦諸鑛物を包藏するも、開發する者甚だ少なく。唯和闐車爾成より産出する砂金及び和闐の玉石は、最も著名なりとす。